

「人間形成をハード面で支える新校舎に」と語る鎌刈理事長



段の幅も四メートルと、ゆつたりした構造にする。「生徒は学校で一日のうち約一〇時間を過ごす。通路を隣のクラスや異学年との交流を促進する場とし、将来にわたる人間関係の構築を目指す」と鎌刈理事長。

「地域に開かれた校に」

一階入り口正面には、現在の約三倍という三五〇平方㍍の図書室を配置。入り口横には八一七平方㍍と広々とした多目的ホールがあり、集会や催しに使う。入り口前には別棟の食堂を新築する。これらは全て、地域に全面開放する方針。「学校は地域にとって重要な役割を果たすべき存在。学校再編の流れが加速する中、盈進は日常的に

地域に開かれた校に

地元の方が出入りされる校にしたい」との考え方からだ。現食堂も一般の利用が可能。また生徒らは、千田学区の住民と一体となつて行事などに取り組んでいる。

一階にはほかに、広い吹き抜けの中庭や書道教室・物理教室、盈進の歴史を紹介する資料室などを設ける。

二階には、職員室（八五八平方メートル）をはじめ教員関係施設を集約。職員室は壁で囲わず、カウンターで仕切る。「生徒が気軽に立ち寄れるようにして、距離を近付けたい」。進路指導などを行うキャリア支援室にはパソコンを備えたスペースが複数あり、進路相談や情報収集ができる。

二階北側には渡り廊下を付

地元の方が出入りされる校にしたい」との考え方からだ。現食堂も一般の利用が可能。また生徒らは、千田学区の住民と一緒に一体となって行事などに取り組んでいる。

「今後も社会に役立つ人材の育成をベースに、生徒にとって価値ある学校づくりをする」と鎌刈理事長。一人っ子が多い昨今、「新校舎は、異年齢交流などを通じた基礎的な人間形成を支援できるよう工夫を凝らした」と説明する。「生徒が志を遠く高く持ち、将来を語り合いながら自ら成卒業生は累計三万人弱に上り、同窓生の絆も強い。

[View Details](#) | [Edit](#) | [Delete](#)

社会に役立つ人材養成

社会適応力を養う
部合格を目指す
「パイオニアコース」と、国公私立
大を目指す「チャレンジヤーコース」を新設する。
パイオニアコースでは長期休暇中の合宿勉強会も実施、三年一学期の英検準二級合格を

盈進の歩み年表

1904年	福山市東深津町出身の藤井曹太郎が、盈進商業実務学校として同市東町に設立
1933年	同市三吉町に移転
1945年	福山空襲で校舎が全焼
1948年	盈進商業高校となり、中学校を併設
1962年	普通科を新設して盈進高校に改称
1972年	千田町に移転
1979年	商業科を廃止
1992年	入学者募集を停止していた中学校を再び開校
2019年	高校新校舎が完成予定

備する。総事業費は公表していないが、数十億円規模と見込まれる。費用の一部は文部科学省の補助金を充てる。

新校舎の設計は同窓企業でもある原設計株(同市御門町)。施工業者は2月以降に一般競争入札で決定する。建築関係で働く卒業生も多く、地域貢献のため入札は福山エリアに本社のある共同企業体を対象とする。

現高校校舎は築四六年を経過し、耐震補強が課題となっていた。二年ほど前から建て替えに向け内部で協議を重ね、デザインを練り上げてきた。

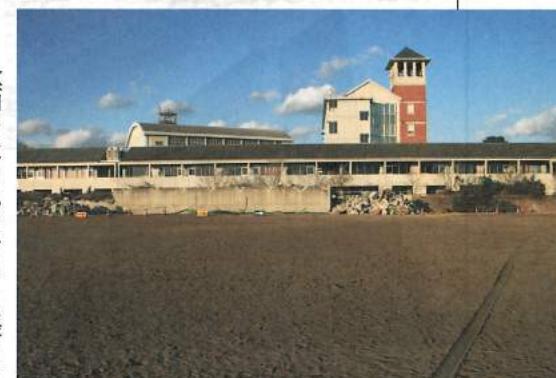
生徒の交流に配慮

壁面に赤で盈進の校名と工
ンプレムをあしらつた、南西
向きの新校舎。目を引くのは、

備する。総事業費は公表していないが、数十億円規模と見込まれる。費用の一部は文部科学省の補助金を充てる。新校舎の設計は同窓企業で

**校舎
む工夫**

盈進学園が高校校舎を新築へ ガラス張りで生徒を育む工夫満載、来春完成



新校舎の建設予定地(手前)。
後ろの中学校舎と渡り廊下でつなぐ